

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区北砂一丁目9番6号
施設名	スクルドエンジェル北砂園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

世界の言葉に触れよう

〈テーマの設定理由〉

本園では、月2回外国人講師が来園する機会があり、この環境を活かし、子どもたちが異なる言葉や文化に身近に触れられる機会を充実させたいと考えた。
日々の保育の中でも、遊びや絵本、歌を通して新しい言葉や音に関心を示し、挨拶や歌詞の一部を真似して楽しむ姿が見られる。
こうした姿から、外国語に触れることは子どもたちの好奇心や表現する力を引き出し、他者や異文化への関心を広げることにつながると考え、本テーマを設定した。

2 活動スケジュール

発達に応じて段階的に活動を計画し、年間を通して以下の流れで実施した。
① 挨拶や簡単な言葉に触れ、音やリズムを楽しみながら外国語に親しむ
② 歌や手遊び、絵本を通して、言葉や表現に繰り返し触れる
③ 簡単なフレーズでのやりとりを取り入れ、自分の気持ちや考えを表現する経験を重ねる
④ 発表や見せ合いの機会を設け、互いの表現に触れながら伝え合う楽しさを感じる
⑤ 日常の遊びや生活の中でも言葉を使う場面を広げ、自然なコミュニケーションへとつなげる
また、月2回程度の外国人講師による英会話レッスンを活動の中心に据え、日常保育の中でも継続的に取り入れながら、言葉に親しむ環境を整えた。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

英語カードや英語の歌の絵本を準備するとともに、外国人講師がレッスンで使用するフラッシュカードや音源についても、保育活動の中で活用できるよう整備した。
また、これらの教材を日常保育の中で自由に触れられるよう常設し、子どもたちが興味や関心に応じて主体的に関われる環境を整えた。
さらに、歌やリズムに合わせて言葉に親しめるよう活動スペースを工夫し、安心して言葉に触れられる環境構成とした。

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

保育士が活動全体を見通しながら、月2回の外国人講師による英会話レッスンを中心に据え、挨拶や歌、絵本の読み聞かせ、簡単なフレーズでのやりとりを行った。
レッスンでは、歌やジェスチャー、カードを用いた活動を通して、子どもたちが音やリズムに親しみながら言葉に触れられるよう工夫した。
また、レッスンで扱った内容を日常保育の中でも継続的に取り入れ、朝の会や帰りの会で振り返る機会を設けることで、園児同士の自然なやりとりへとつなげた。
さらに、英語カードや英語の歌の絵本を常設し、自由遊びの中でも主体的に触れられる環境を整えることで、日常的に言葉に親しみ、興味・関心が広がるよう工夫した。
言葉を通じたコミュニケーションの楽しさを感じられるよう支援した。

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

幼児クラスでは、英語の歌や絵本、外国人講師とのやりとりを通して、「Hello!」「Thank you!」などの言葉を楽しみながら発する姿が見られた。また、「これ英語でなんて言うの?」「もう一回やりたい」といった声も聞かれ、言葉や音への関心を高めながら、自分の思いや考えを伝えようとする様子がうかがえた。

一方で乳児クラスでは、英語の歌やリズムに合わせて体を動かしたり、保育者の発音を真似して声を出したりする姿が見られ、繰り返し耳にする言葉に反応しながら、身振りや表情で伝えようとする様子が見られた。

また、子ども同士でも覚えた言葉を使ってやりとりをしようしたり、歌を一緒に口ずさんだりする姿が見られ、関わりの中で学びが広がっていた。

保育者は子どもの発言やしぐさを受け止めながら言葉を補ったり繰り返したりすることで、安心して表現できるよう関わり、一人ひとりの発達に応じて言葉やジェスチャーを通したコミュニケーションが広がるよう支援した。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

活動の振り返りを通して、乳児クラスでは、歌や絵本のリズム・音に合わせて手足を動かしたり声を出したりして楽しむ姿が見られた。幼児クラスでは、英語カードや歌の絵本を使った活動の中で、発語しようしたり、友だちの動きや声を真似しながら取り組む姿が増え、関わりの広がりも感じられた。

これらの観察を踏まえ、子どもたちの発想や意欲を引き出す声掛けや、活動の環境構成の工夫が重要であると再認識した。引き続き、乳児クラスでは簡単な英単語や手遊びのフレーズを日常的に取り入れ、幼児クラスでは簡単な自己表現フレーズを増やすなど、段階的な活動の広がりを意識していきたい。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区北砂一丁目9番6号
施設名	スクルドエンジェル北砂園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

ゲーム作りに挑戦しよう！

〈テーマの設定理由〉

本園では、保育活動の一環として園児がiPadを使用できる環境を整えている。この環境を活かし、子どもたちが主体的に考え、創造的に学ぶ機会を充実させることを目的とする。プログラミングを通じたゲーム作りの活動は、自ら試行錯誤しながら取り組むことが可能であり、好奇心や探究心を育むことにつながると考え、本テーマを設定した。

2 活動スケジュール

発達に応じて段階的に活動を計画した。
① iPadやプログラミング教材に親しみ、基本的な操作や使い方に慣れる
② 簡単な動きや仕組みを試しながら、自分の発想を形にする経験を重ねる
③ ゲーム作りに発展させ、試行錯誤しながら工夫する活動を行う
④ 作品の発表や見せ合いを通して、互いの考えに触れながら学びを深める
⑤ 上記で培った思考力をもとに、プログラミング教材でロボットの道筋を考える
月2回程度プログラミング専任講師によるレッスンも活用し、日常保育の中でも継続的に取り組めるよう環境を整えた。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

iPadやプログラミングアプリ、プログラミング教材を準備し、園児が発達に応じて無理なく取り組めるよう環境を整えた。また、活動で使用した教材は日常保育の中でも自由に触れられるよう常設し、興味や関心に応じて主体的に取り組めるようにした。さらに、落ち着いて操作や試行錯誤ができるよう活動スペースを工夫し、集中して取り組める環境構成とした。

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

iPadを用いてキャラクターを動かしたり簡単なゲームを作ったりする活動に取り組んだ。また、プログラミング教材を用いて順序や試行錯誤を楽しみながら考える経験を重ねた。活動の中では発表や見せ合いの時間を設け、互いの工夫に気づき言葉で伝え合う姿が見られ、主体性や協働性、傾聴する力の育成につながった。

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

iPadでのゲーム作りでは、「どうやったら動くかな?」「順番を変えたらできたよ」など、試行錯誤しながら筋道を立てて考える姿が見られた。プログラミング教材でも、友だちと見せ合いながら「こうするといいよ」と伝え合い、互いの考えに触れる様子があった。保育士は気づきに寄り添いながら声掛けを行い、子ども同士の関わりや思考が深まるよう支援した。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

活動の振り返りを通して、園児が試行錯誤を重ねながら筋道を立てて考える姿や、自ら工夫して取り組む様子が見られるようになったことに気づいた。また、友だち同士で考えを伝え合う場面も増え、関わりの広がりが見られた。これらの姿を踏まえ、子どもの発想を引き出す声掛けや環境構成の工夫が重要であると再認識し、今後の活動に生かしていきたいと考えた。